

札幌管区気象台における目視観測を自動化します

これまで札幌管区気象台では、気温、風、降水量、日照などを自動で観測するとともに、職員が目視により晴れや曇り、雨、雪、霧などの天気や大気現象及び視程（見通しのきく距離）を観測してきました。

近年、気象レーダーや気象衛星観測等を活用した総合的な大気の把握が可能となる等の技術の進展を踏まえ、目視観測を自動化します。

- 1 変更予定日
令和6年3月26日
- 2 変更点等
別紙のとおり

問合せ先：気象防災部観測整備課 佐藤
電話 011-611-6277

札幌管区気象台における目視観測の自動化について

これまで札幌管区気象台では、気温、風、降水量、日照などを自動で観測するとともに、職員が目視により、晴れや曇り、雨、雪、霧などの天気や大気現象及び視程（見通しのきく距離）を観測した結果を、毎日定められた時間に気象観測通報として発信しています。

近年、気象レーダーや気象衛星観測等を活用した、総合的な大気の把握が可能となる等の技術の進展を踏まえ、観測のあり方について見直しを図りました。

このため、令和6年3月26日（予定）から、通報のために職員が目視により行っている観測を自動観測へ移行するとともに、一部の大気現象等の観測を終了します。

■ 自動観測に移行する観測種目

- 以下赤枠内の大気現象については、職員による目視観測から自動観測に変わります。
- 視程（見通しのきく距離）も、新たに設置する視程計を用いた自動観測に変わります。
- 雷は、これまで職員が目視や聴音により観測していましたが、雷監視システム（LIDEN）と気象レーダーのデータを用いた自動観測に変わります。

〈今後、自動で観測する天気や大気現象〉

晴、曇、雨、雪、みぞれ、霧、もや、煙霧、雷

■ 目視観測の自動化に伴い観測を終了するもの

● 天気

快晴、薄曇

● 大気現象

現象の分類	目視観測の自動化に伴い観測を終了する大気現象
大気水象	雪あられ、氷あられ、ひょう、細氷、凍雨、霧雪、着氷性の雨、ふぶき、しぶき、 霜 ^(注) 、 結氷 ^(注) 、竜巻、積雪、 冠雪 ^(注)
大気じん象	黄砂、煙、降灰、風じん、砂じん嵐、じん旋風
大気光象	かさ、光冠、彩雲、にじ
大気電気象	電光、雷鳴

(注)
寒候年(前年8月～当年7月)に初めて観測する**霜**、**結氷**、**冠雪**は従来どおり**初霜**、**初氷**、**初冠雪**として記録します。

● 雲

雲量、雲形